

## 城北の五心 (明るい心、感謝の心、正しい心、思いやりの心、美しい心)

学校教育目標 「将来の夢の実現に向け、高い志と意欲を持って、  
学び続けることができる生徒の育成」

### 中体連、コンクールの激励会で決意を発表しました

6月30日に激励会を行いました。各部の部長さんが目標や抱負、大会に向けての決意等を発表してくれました。嬉しかったのは、どの部もこれまで3年間支えてもらった人への感謝の気持ちをしっかり伝えてくれたことです。結果も大切ですが、目標達成を目指して、ここまでチームとして取り組んできた過程がすばらしく、努力することの大切さや、人のことを思いやることの大切さを身をもって学んできたことがすばらしいものです。城北中の各部の生徒たちはそういう意味ですでに勝利を手にしてしています。3年間よくがんばってきました。結果を恐れず、悔いのない演奏やプレーをしてけると信じています。



### 体育大会に向けて動き出しました



9月12日(日)に実施する体育大会に向けて、オリエンテーションやブロック編成などが動き出しました。城北中学校の体育大会は赤と青の2ブロック編成で対抗して実施するのが伝統です。各学年とも4学級なので、くじ引きで2チームのチーム編成を行いました。今後、体育大会の練習計画や練習を運営するブロックリーダーや応援リーダーが選出され、体育大会に向けた準備を開始することになります。北辰全開の心意気で、燃える体育大会にしてくれることを期待します。

### 県立高校の説明会を実施しました

6月22日(火)に県立高校説明会を実施しました。今回は各教室等で実施し、各自が事前に希望を出した3つの高校について説明を聞きました。運営は3年生の実行委員を中心に行われ、説明後も熱心に質問をする生徒が多く、実りある説明会にできたようです。高校の先生方からも「とても熱心に話を聞いてくれ、説明する側もやりがいを感じました。」など、城北中の3年生に好印象を持たれたようです。



### スタントマンの実演による交通教室

6月24日(木)にJA共済主催の交通安全教室を実施しました。今回の教室はスタントマンによる交通事故や自転車の危険運転がもたらす事故などについて実演が行われました。自転車の並進や右側通行、一時停止の不実行など、子どもたちが、自転車の運転で不十分なところについて重点をおいて実演が行われ、その行為がいかに危険であるか、あるいは交通事故を引き起こすことになるかを実感することができたようです。翌日の朝の登校を見ると、この教室で指摘されたことを守って自転車通学をする生徒が増えました。



## 入賞おめでとう！

佐賀県中学生卓球選手権大会 男子シングルス 第2位 3年 豆田遥都さん

第4回中部地区中学校スケッチ大会 学校賞 最優秀賞

特選 3年 田中蓮也さん 山口恵実さん 2年 飯田真唯さん 伊藤菜那さん

2年 船津丸 綾乃さん 城 花恋さん 中島乃愛さん

入選 3年 張 佳怡さん 山口琉生さん 2年 松林 葵さん 古賀七海さん

1年 佐野 由璃子さん

中学校美術部による展覧会 優秀賞 2年 船津丸 綾乃さん

佐賀市中学生卓球大会 女子シングルス 第3位 3年 秋葉真央さん

全日本中学校通信陸上競技大会

3年男子100m 第2位 松永憲政さん 第5位 八並大飛さん 第8位 宮地俊亮さん

2年男子100m 第3位 樫野太志さん

1年男子100m 優勝 井島暢宏さん

共通男子200m 第4位 2年 樫野太志さん

共通男子走幅跳 第2位 3年 八並大飛さん

共通男子4×100mリレー 優勝

2年 樫野太志さん 3年 宮地俊亮さん 松永憲政さん 八並大飛さん

低学年男子4×100mリレー 優勝

2年 江頭伊吹さん 中村充希さん 1年 井島暢宏さん 青木圭真さん

### 【中体連・コンクール激励式の校長講話より】

(30歳の女性が自分の中体連の思い出について書いた作文を紹介しました)



これが最後の挑戦。最後の夏。勝ってほしい。勝たせてあげたい。青山君がどれほど頑張って練習してきたか、知っているから。試合は、途中まではほぼ互角だった。ただ、相手のサーブをとめることができない。そこから崩れるのが心配だった。この暑さ。応援しているだけでも息があがる。青山君も肩で息をしていた。バシッ！ 鋭い音がして、またサーブが決まってしまった。「ああ」応援席からため息がもれる。劣勢だった。点差が開く。「ああ、ここまでか」とみなが思っているのがわかった。

「青山君はよくやったよ。あの強敵とここまでやりあったんだから」

そんな心の声が聞こえた気がした。応援の声も小さくなる。

ダメ、負けると思ったら、そこで負ける。ダメ、青山君。諦めないで。そう思ったけれど、声に出せなかった。たったひとりで戦っている彼からも、ふっと元気が消えていく。

ダメ、青山君！ とそのとき、小柳先生が、低く、でもしっかりした声でこう言った。

「元気は出るのではなく、出すものです」

それは、コートで戦う青山君に言ったのか、応援している私たちに言ったのか、よくわからなかったけれど、私は大きな声を出した。

「青山君！ 負けるな！」

すると応援団も息を吹き返した。

「負けるな！ 青山！！」

青山君がこっちを見た。彼に何かに戻ってきた。胸を張る。サーブを打つ。決まった！

小柳先生のひとことが、私たちを鼓舞し、青山君を奮い立たせた。

彼はどんな球も諦めず、拾った。その粘り強さに、私は涙が出た。